社協 やまもと

平成27年1月31日発行

第101号

編集

山本学区社会福祉協議会

広報委員会

☎874−0157

自分史の中の十大ニュース

山本公衆衛生推進協議会会長

山本二丁目　中尾計三(83)

健康寿命もいつしかクリアー、今日迄の長寿に感謝、わが人生を振り返った時悲喜交々の思い出が山積、思いつくがまま、十大ニュース的にまとめてみるのも一興と思い筆を走らせた。

①平成二十年春の叙勲で「瑞宝小綬章」を拝受、妻とともに上京、赤坂プリンスホテルで総務大臣から勲記・勲章の伝達を受けた。その後皇居内の豊明殿で天皇陛下に拝謁、お言葉を賜り、最前列にいた私に、「お元気ですか」の質問に緊張で何も答えられなかった思い出と、受領したお菓子を手に帰広した。

②今年は被爆七十年。十四歳の中学二年生で生死を彷徨う体験。

我が家は壊滅。路頭に迷う生活の始まり。焼け跡に父を残し、母と連れ添い祖父の待つ戸山村に行く。十日間程度で病状も小康状態となり、親戚筋の援助等もあって焼け跡にバラックを建て、家族五人の住家とした。生活振りは最低、良くぞ堪えたものと両親に感謝。被爆者も年々減少、元気でいる限り後世に伝えるための努力を惜しんではならないと思っている。

③最高の尊敬者、両親との死別、父九十二歳、母九十四歳だった。

死別までよくぞ面倒を見てくれた両親には、最高の謝辞を送りたい。叙勲の報告ができなかったことが悔やんでも悔やみきれない。

特に、母の人生訓は格別で「人様は一歩前、一段上におられることを忘れるな」と教えられたものである。まさに母は賢人だったと思う。最高の感謝の念を送りたい。

④一生の職場として郵政省に。戦後就職難時代、国家公務員として貯金局に採用され、昭和四十七年には郵政省の本丸たる本省に転勤となり、全国の関係部局を回る機会を与えられた。見知らぬ地を官費旅行をさせて貰ったことに感謝している。仕事は超多忙、帰宅は深夜、単身赴任の惨めさを味わったものである。

⑤四十年の公務員生活に別れ、再就職し民間企業の厳しさを味わう。六年間体験した多くの知識は、その後の人生に大いに役立った。

特に、四十六年間の交友関係は巾広く、今でも年賀状は六百枚余りに達し、一枚ごと当時を懐かしんでいる。以下項目的にあげると、

⑥永遠の居住地として山本を。

五十年前を思うと感無量、決断した事に喜びを感じる今日この頃。

⑦ボランティア活動に関心。

長年地元不在で、お世話になった御恩返しにボランティア活動に精を出す。老人会、社協、自治会等のお世話をし、安佐南区民大学、花いっぱい運動の設立には自分ながら、うまく軌道に乗せたものと喜んでいる。

⑧ガンの発病、八時間余りの大手術に死の直前まで体験。

遺伝的要素も無いのにガンの発病にはビックリ。原爆放射能による疑いありと診断され、今更ながら原爆の恐ろしさを痛感している。

⑨小学校を皆勤で終えたこと。

皆勤の賞状を貰った時、両親が喜んでくれた姿が、未だに脳裏を離れない。孫・子にも自慢の話。

⑩人生の一大行事たる結婚で一男一女を設け、子孫繁栄の責任を果たす。貧乏生活の一助と「手芸品・たばこ」の店を開業、お陰で妻の海外旅行は十数回を数え、当時をなつかしんでいる。

8・20豪雨土砂災害

山本地区の災害状況について

山本学区連合自治会自主防災会
会長　長　岡　　孝

　平成二十六年八月二十日未明の局地的な豪雨により、山本地区においては、土砂災害で二人の子どもさんが犠牲となり、また山本川上流では河川護岸の崩壊、道路の陥没、住宅・農地への土砂の流入など随所で大きな被害を受けました。犠牲となられた方のご冥福をお祈りするとともに、被災された方に心よりお見舞い申し上げます。

　十九日深夜から雷とともに降り続いた雨。雨量がピークとなった二十日午前二～三時頃には、河川に近い住民は、石がぶつかり合う音と、濁流が住宅に流入する状況に危険を感じ、高台（春日野団地ほか）に車で避難されたと聞きました。

　幸いに、河川流域において人的被害はありませんでしたが、埣川、西山本川、山本川沿いでは様々な被害がありました。この三つの河川は下図のような位置関係にあり、六丁目、祇園団地の横を流れる埣川は、正田公園近くで西山本川と合流し、その下流で春日野団地の調整池からの水が山本川に合流します。

被害河川の位置図

■埣川流域の住宅・農地被害

　住宅地沿いの護岸が土石流により崩壊し、住宅の基礎部分が崩落した状況の写真です。

崩落したブロック塀とフェンス

　住宅・農地にも大量の土砂が流れ込み、農地については未だに撤去が進んでおりません。

■西山本川流域の被害

護岸崩壊により基礎部分が流出

　マンションの対岸も護岸が崩壊し、農地に流れ込んだ大量の土砂が見えます。

護岸のコンクリート壁が崩落

　護岸の崩壊は、上流から流れた大きな石が、石積みされた護岸を壊し連鎖的に下流に及んだと思われます。

■山本川流域の被害

土石流による住宅と基礎の損壊

■復旧工事の現況

　被害を受けた護岸は、県・市において測量・設計を終え、今年三月を目途に、一部の場所では工事に着手しています。広島市管轄の埣川流域も、今年早々から工事に着手の予定です。土石流が発生した祇園団地裏山の危険渓流地は砂防ネットの設置工事が今年早々に着手され、その後、砂防堰堤が建設される計画となっています。

■今後の防災に向けて

　砂防堰堤の建設などハード面の対策には時間がかかります。危険を感じたら先ず避難することを心掛け、日頃から自助・共助の意識を高めておくことが大切です。

迎春

今年もよろしくお願いいたします。

社協役員一同

新年のごあいさつ

会長　大石　正明

・謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

平素は社会福祉協議会の活動にご理解とご協力を賜わり、ありがとうございます。

昨年八月二十日の土砂災害で、安佐南区・安佐北区では家屋の倒壊とともに、七十四名の方の尊い命が失われました。お亡くなりになった方々のご冥福をお祈りいたしますとともに、被災された皆様には、心よりお見舞い申し上げます。

地元山本地区においても、お二人のお子様が亡くなられましたことは、大変痛ましいことです。また、山本川ならびに支流河川の護岸が数か所破壊し、団地におきましては土石流の被害が数箇所で発生しました。テレビ・新聞等のマスコミ報道ではあまり実態が報道されませんでしたが、一歩間違えば人命にかかわるほどのものでした。被災箇所では先ず、近所・自治会、続いてボランティアグループの方々によって、土砂の撤去等、応急復旧が行われました。また、災害発生当日の早朝には山本集会所が避難所となり、翌日には山本小学校が避難所となりました。その際は、私ども社協の役員は避難者と区役所のなかをとりもち、円滑な避難生活ができるよう微力をつくしました。しかしながらはじめての経験であり、お役に立ったかどうか分かりません。他にもすべきことがあったのではと思う今日この頃です。以上のような状況下、予定していた、「敬老フェスティバル」、「祇園西公民館祭り」等、主要行事の多くが中止となりました。今回のような大きな災害が起きると行政の人手は少ないので、とても全ての人を助けに行くことはできません。先ず自分の身は自分で守る（自助）。次に地域の人が協力して援助、避難場所に避難する（共助）。そして消防や行政（公助）ですが、これは、機能するのが遅れがちです。これからは、「災害は起こるかも」ではなく「災害は必ず起こる」という気持ちで準備しておかなければなりません。「備えあれば憂いなし」。被害を最小限に留めるためには「防災対策」の立案ならびに日頃からの「避難訓練」が必要と思います。最後に、この一年が皆様にとって良い年でありますように、祈念申し上げます。

平成二十六年　敬老フェスティバル

昨年九月十三日、「敬老フェスティバル」を予定しておりましたが、直前の八月二十日の土砂災害により多くの方がお亡くなりになったり、甚大な被害が発生したため、自粛いたしました。地元山本地区におきましてもお二人のお子様が亡くなられ、また河川流域の破壊、団地の土石流被害等が発生いたしました。被害者は山本小学校、山本集会所に避難され、不自由な生活が始まりました。そのような状況下、「緊急社協役員会」を開催し、諸般の事情により中止することとなりました。早くから新しい企画を練り、お客さまに喜んでいただきたいと思っておりましたので誠に残念です。なお、祇園中学校三年生（男女二名）、山本小学校二年生（男女二名）からもお祝辞、ならびに山本小学校一年生全員の皆様からは「絵手紙」をいただきました。紙面をおかりして、ご提供いただいた関係者の皆様に、心よりお礼申し上げます。

ご高齢者から優先して配布させていただきましたが、「絵手紙」をもらった八十九歳の方は、「かわいくって、心温まる手紙をいただき、大変嬉しい」と言っておられました。紙面の都合上、全ての記載は割愛させていただきますが、「小学生の祝辞」と「絵手紙」の一例を紹介させていただきます。

小学生の祝辞

二年生代表

けいろうの日おめでとうございます。からだに気をつけておすごしください。いつまでもお元気で。

山本まごころ保育園

園長　植田和稔

山本まごころ保育園は、広島市の公募において平成十九年四月に開園、その四年後の平成二十三年に分園として「春日野まごころ保育園」を開園しました。

保育所では、0～6歳までの子どもたちがともに生活し、健やかな成長を目指して日々保育しています。

異年齢の交流保育では、年齢の違う子ども同士、手をつないで散歩に出かけたり、一緒に遊ぶ中で、社会性、思いやり、大きい友達への憧れ、尊敬の気持ちをはぐくんでいます。

子どもが長時間生活しているので、温かなくつろぎの場を用意し、職員との信頼関係を基に周囲の子どもや大人と関わって心の揺れを受けとめたり、友達同士一体感を多く体験することで、人に対する愛情や信頼感を持てるように関わっています。

一人一人が大切に育てられるために「温かなくつろぎの場」であったり、「生き生きと活動できる場」となるような環境を整えています。

自園では、園の畑で子どもたちが四季折々の野菜を作って自然に触れ合っています。

4月　タケノコほり

特に現在では0歳から3歳までの育ちがとても重要だとされている研究結果もあり、職員も毎日子どもの育ちに一喜一憂しながらも緊張した毎日を送っています。

山本地区はまだ多くの自然が残っており、子どもたちへの自然体験活動も積極的に行動に取り入れるようにしています。例えば、田んぼで泥だらけになって遊びます。泥の感触が嫌いで泣いてしまう子も最後には田植え、秋には稲刈りをして、そのお米でおむすびを作って食すところまで体験し、年間を通して食の大事さを、子どもに伝え、好き嫌いのない子どもに育つように工夫しています。

6月　田植え前の泥あそび

もちろんそうした活動を行うためには、体力づくりも重要な要素になります。運動機能をどうやって高めていくかを研究しながら、子どもの遊びの中に取り入れ、自然と体力がついていくようなプログラムづくりにも力を入れています。集大成として、年中・年長は約2kmのマラソン大会に、武田山・火山の登山があります。

子どもたちは大人が思っている以上に体力もあり、我慢強く、最後までやり遂げようとする力を充分持っています。それをいかに引き出して、子ども自身が達成感を味わうことができるかがとても重要な要素であり、それが保育士の仕事でもあります。

9月　祖父母との交流

行事としてお年寄りを招いて、昔遊びを楽しんだり、春日野園を定期的に訪れて交流を図ったりしています。保護者支援だけでなく、地域との交流の活性化なども保育指針にうたわれており、未熟園児が参加できる「きんさい！」事業も毎月行い、多くの方々に保育所に親しんでいただけるように創意工夫を重ねています。

保育所の運営は、地域の皆様の理解と協力があって成り立っていくものです。地域行事の参加など、これからもいろいろな方法で地域との交流を図り、子どもの声が騒音ではなく、地域の人々から喜んでもらえるような保育所づくりを目指していきたいと思います。

私ごとですが、このたび社会福祉法人明徳福祉会理事長を仰せつかりました。長束保育園共々地域のお役にたてるように尽力していきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

10月　稲刈り

もみじまつりといきいきサロン

昨年十一月二十三日の勤労感謝の日に、武田山の「鹿ヶ谷ふれあい広場」で「第八回もみじまつり」が開催されました。秋晴れの日に色あざやかな紅葉の中で、六百五十人の参加者を迎え、みどり会の稲田会長の挨拶でまつりがスタートしました。八月二十日、広島土砂災害で亡くなられた方七十四名のご冥福をお祈りするとともに、被災された方々が安心して生活できる日が一日でも早く訪れるように、全員で黙祷。続いて、県砂防課の「土砂災害から人命を守るために」の講演がありました。

県砂防課からの講演

正午前に、名物の豚汁無料サービスが始まり、長い行列ができだすと、会場内あちこちで、ぶんぶんゴマ回し、大きなカボチャの重量当てクイズ、焼き芋を口にする人、喫茶店でコーヒーやケーキを食べる人、ピザを買う人、弓矢大会を親子で競っている人など各催し物コーナーに人だかり。

正午過ぎには、イベント会場で、琉球空手の実演、コマ回し。みんなで赤とんぼ、もみじ、ふるさとをハーモニカの伴奏で合唱。参加した、サロンの会員の一人は、「こんな近くに、紅葉の美しい、素晴らしい所があるなんて驚きました。これからもサロンを楽しみにしています。」と感動されていました。

扇の上にコマ回し

琉球空手の実演

紅葉の下で昼食

いきいきサロンと忘年会・クリスマス会

昨年十二月二十日（土）、クリスマス会を山本集会所で開催しました。会長の挨拶の後、会員とスタッフの点呼では、元気な返事が返ってきて、順調なすべり出し。

まずは、「デーサービスあゆみ」の丸本さん指導による健康体操を、「三百六十五歩のマーチ」に合わせ全員で行った。

その後、場内にクリスマスソングが流れると、次第に盛り上がってきた。司会の「いよいよ小学生とお楽しみのタイムです」を合図に、全員が大きな拍手で、山本小学校五年生十二名を迎える。まずは、躍動感あふれる「よさこいソーラン」が舞台狭しとばかりに披露された。続くリコーダーの演奏にも、参加者一同熱心に聞き入った。

よさこいソーラン演舞

全員参加のビンゴゲーム

続いて、小学生もみんなの間に入り、ビンゴゲームをスタート。番号を呼び上げる度に、歓声や、ため息がでる。そのうちリーチがかかり、しばらくすると、「ビンゴー」と、サロン会員から声が出た。

三人の女性の繰り広げるマジックでは、子どもたちの歓声、ヤジと、演技者とのやり取りに、みなさんからの笑い声が絶えず、楽しいひとときはあっという間だった。

女性三人のマジックショウ

最後に、ハーモニカの伴奏で、参加者六十五名全員で「ふるさと」の合唱で、幕を閉じた。

会員は、「子どもたちに、元気をもらった」「生のマジックをそばで見られて楽しかった」と、帰途につかれた。

（福祉活動委員長　俵　浩一郎）

赤い羽根共同募金のお礼

共同募金山本地区分会

赤い羽根共同募金が、昨年十月一日から、全国一斉に展開されました。自治会を通じての募金、地元企業からの募金、そして、街頭募金を展開して参りました。

昨年末をもって一応締め切り、本部において集計作業が行われています。街頭募金は、十月一日にフレスタ東山本店の店舗で、女性会二名・民児協二名・社協二名の計六名の方で行われました。

残暑の厳しい中、お疲れ様でした。皆様の善意による募金は、地元の福祉活動の財源として還元されます。

募金風景

ご協力ありがとうございました。

献血のお礼　愛の献血に感謝

山本学区公衛協献血協力会
献血協力委員　小田　稔

平成二十六年十一月二十九日（土）山本小学校グラウンドで、山本社協、城北ライオンズクラブの共催による、恒例の「献血助け合い運動」を実施いたしました。

当日は、天候にも恵まれ、地域の皆様九十人の方から善意の献血のご協力をいただきました。スタッフも街頭に立ち、チラシを配ってご協力を呼びかけました。また小学校・幼稚園・園児の各家庭にご協力を得て児童・園児の各家庭にチラシを持って帰ってもらい献血の呼びかけをしました。皆様のご協力に感謝申し上げます。ありがとうございました。

献血会場風景

本年も愛の献血運動が実施される予定です。皆様方のご理解とご協力を、よろしくお願い致します。

青空いきいき出前　健康講座

平成二十六年六月二十六日（木）平山神社ちびっこ広場において、出前健康教室を開催しました。健康運動指導士の「青空のもと一緒に身体を動かしましょう」のかけ声で、柔軟体操をし、体をほぐしました。

健康体操風景

寄付

皆様のご厚志に対し、心よりお礼申し上げます。地域福祉、発展のために、有効に活用させていただきます。

山本四丁目　[illegible]様
物故者　[illegible]様
長束六丁目　[illegible]様
物故者　[illegible]様
山本八丁目　[illegible]様
物故者　[illegible]様
物故者　[illegible]様

山本社協　ホームページ
検索　でご覧いただけます。是非、ご覧下さい。

広報委員会から

広報紙「社協やまもと」101号をお届けします。

現在８名のメンバーで、企画、取材、編集、校正、印刷手配、配付をそれぞれ分担して携わっております。年２回の発行ですが皆様に親しんでいただける広報紙としてまた、学区内の情報を幅広くお知らせできるよう広報委員を募集しております。

山本にお住まいの方自薦、他薦どなたでもご応募下さい。

お待ちしております。

山本四丁目 9-3-4
山本集会所内　社協事務所
電話　871-8422（FAX 兼用）
または、ハガキ・メモで
ご連絡下さい。